

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870901473		
法人名	特定非営利活動法人 エコロジーネットワーク		
事業所名	エコ西宮		
所在地	兵庫県西宮市薬師町5-50		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	2011年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kaigo.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2010年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ一人一人がその人らしく普通に生活できるように支援していくことを心がけ努力しています
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は阪急門戸厄神駅に近く、近隣には医療機関や商業施設等も多く、利便性に恵まれたところにある。職員は利用者一人ひとりの個性、状態を把握し、希望に沿えるよう日頃から利用者に寄り添いながら意思疎通に努め、さらに高齢者を人生の先輩として敬い、やさしい気持ちで日々接している。当事業所はNPOの特性、柔軟性を活かし、従来の社員寮を改装することで、利用者や家族が利用しやすい低料金設定に努めており、利用者の立場を大事にしているといえる。今後はNPOの立場で、利用者が認知症であっても地域でその人らしく暮せることを支援していくことにも発展させ、さらに利用者、家族の立場に立ったサービスの提供を目指してほしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	作成し玄関・各フロアー・スタッフルームに掲示し実践するようになっている	利用者に日々喜んでもらうことを目指し、それにより家族にも安心してもらえる介護を理念に掲げ、全職員が日々努力している。	ホームが理念を目指すうえにも、利用者との地域住民との関わりや関係性を、より深めるための理念を望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事ににできるだけ参加している	希望者は、老人会や子ども会の集まりなど地域行事に相互交流、参加している。ホーム主催の夏まつりには、近隣の人たちの多数参加があり、盛況であった。近隣のボランティア参加も徐々に増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買物・散歩・病院の受診時でのあいさつ・会話などにより、認知症の人を理解して頂ける様努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	改善を行い、サービス向上に活かしている	事業所からは利用者のホームでの様子等近況報告が主で、居室を見てもらったり、昼食を食べてもらう機会もつくった。参加家族からは個別の要望や他ホーム管理者からの助言をもらうこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と随時連絡をとり、協力関係を築いている	利用者の個別状況等、必要に応じてやりとりはある。さらに関係性を深めたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては危険が伴う為、殆どしている状態であるが、他の点では身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる	安全上、日中玄関は施錠している。利用者の閉塞感軽減のため、散歩など外に出る機会を極力設けるようになっている。	施錠をはずす時間を極力作るよう、検討を望みたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で課題とし虐待防止の徹底に努めている	管理者は、特に言葉かけについて、会議で課題として取り上げるとともに、日々の業務の中でも折にふれ、注意するよう努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解しているが、現在これを必要とする利用者はおらず活用していない	これまで該当者は無く、特に職員への理解、周知には至っていない。	まずは制度のパンフレット等の整備、さらに職員へ制度理解のための研修の検討を望みたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり、説明し納得を得ている	契約上の事務手続きだけでなく、実際に見てもらうことを優先し、納得してもらった段階で、契約書等の手続きをとっている。病院などの医療機関からの情報にも注意するようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時に利用者の意見を聞くようにし家族の要望を反映できるようにしている	家族会は無く、家族の行事参加も少ないが、日常的に来訪される家族は多く、その折には話す時間を十分にとり、電話も含めコミュニケーションに努めている。職員への遠慮を少しでも無くすよう配慮している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングを行って意見を聞き、可能な限り反映させている	職員は会議等で、積極的に意見を述べる機会があり、管理者は反映に努めるとともに、意見を基にさらに検討することもある。管理者は職員個別の面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対する内部研修は行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム会への参加に努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャー、職員それぞれが各自と話せる時間を持っている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前から要望があれば何度でも面談を行ったり、電話での問い合わせにも対応し、信頼関係の構築に努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員・ケアマネが連携し、柔軟に対応するよう努めている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中で、支えあう関係を築き、気持ちを理解するように努めている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には安心して頂いている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室は殆ど個人と家族の方で作って頂き、家族の写真や今まで馴染んできたものを飾っている	利用者の友人や知人が来所された折は、個々にくつろいでもらうよう支援している。馴染みの人や場がすでに無い場合もあり、写真や馴染みの道具などを身近に置く配慮もしている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えを定期的に行い、いろいろな利用者同士が関わり合えるようにしレクリエーション・外出の機会を活用し支え合えるような関係になれるよう努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の相談なども受け付けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度本人の希望を聞くようにしている、困難な場合は様子を観察し思いや意向を把握するよう努めている	職員は生活歴を基に、日常の状態観察から利用者個々の思いの把握に努め、利用者本人への意思の確認をとるようにしている。判断が困難な時は、本人の状態を汲んで支援するようになっている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の除法を基にこれまでの暮らしを把握するよう努めている		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成していく中で1日の過ごし方、有する力等の把握に努めている、心身状態は協力医に指示書を作成してもらっている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー・スタッフとの話し合いの中でプランを作成し家族にも了解をもらい現状に即した介護計画となるよう努めている	3ヶ月毎に、スタッフ、ケアマネージャー、看護師で、利用者本人の思いや日常の状態を把握し、家族の希望を反映させた計画を作成している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、全ての職員が見ればすぐ分かるようにし、また申し送りも行い実践へ反映するようになっている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度相談などに応じて支援している		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・学生の実習などを受け入れる事により文化・教育機関等と協力しながら支援するようにしている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を尊重し適切な医療を受けられるよう支援している	ほとんどの利用者が納得して、事業所の協力医を主治医としている。受診はできるだけ家族が同行している。現状をサマリーに記入して、医師に伝え、受診結果に関する情報の共有が家族とできるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	勤めている看護師に情報を伝え、適切な受診・看護を受けられるようにしている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に努め情報交換を行っている	利用者が入院中は状態把握をしに病院を訪問している。訪問リハビリや事業所の看護師の対応で早期退院につなげている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と医師との相談の上で方針を決め、それに向けてスタッフとも方針を共存している	看取りの指針を契約時に説明して同意を得ている。状態変化に応じて、随時話し合い、本人、家族の安心と納得が得られるように努めている。現在ターミナルケア中の利用者がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時に確認するようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ビデオを見るなどして全職員が災害時に迅速に対応できるようにしている	消防署指導のもと、消火訓練、避難訓練、通報訓練を行った。夜間想定訓練は実施できていない。近隣の協力は難しいので、隣接する他事業所との協力関係を検討している。	夜間想定訓練と隣接する他事業所との連携を早急に進められることを求める。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格・個性を考慮した、声かけ・対応を心がけている	声かけや名前の呼び方等他人行儀にならず親しみの持てる話し方を心がけている。失禁や衣服の汚れには、羞恥心に配慮して、居室で対応している。接遇の研修を検討している。	近日中に接遇の研修を実施していただきたい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず本人の希望を聞くように努め、納得して生活できるよう支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしよう努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身づくろい等、本人の希望に沿うようにしている			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者によって違いはあるが、出来る範囲で行えるよう支援している	ご飯と汁物は事業所で作る。おやつやイベント食も利用者と一緒に作ることもある。副食は調理済みが配達される。職員は順番に別室で食事をし、休憩を取っている。	食事の一連の作業は職員の見守りがあれば利用者の力を発揮できることがあるので、事業所での副食の調理や職員が利用者と一緒に食事をする等、食事を楽しむ支援を再考していただきたい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分量を記録し状態を把握、看護師に報告、必要に応じ協力医からの指示を仰いでいる			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、清潔保持に努めている			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけをしっかりと誘導を行い、トイレでの排泄を行うように支援している	排泄チェック表をつけ、排泄パターンを把握して、トイレへの声かけ誘導している。職員間でも確認しあって、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の時間をとったり、毎朝の体操、トイレでウォッシュレットをかける等、便秘の予防に努めている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は一人一人の希望に沿ったものとし、また個人のプライバシーを尊重し、入浴を楽しむことができるようにしている	週2回の入浴で、職員の余裕があれば、希望に応じた日時の入浴にも応じられる。入浴拒否する方には、時間を空けて声かけして、タイミングよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息してもらうようにし、生活習慣に応じて就寝時間を決めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報書を介護記録に添付し、一人一人が理解できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴・趣味などに合わせて気晴らしをしてもらっている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけるよう努めている、また家族の協力を得て普段は行けないような場所でも出かける事が出来るよう支援している	気分転換と運動のため、できるだけ外に出かけるよう努めているが、車に乗るだけでも時間がかかり、以前のようにはいかなくなった。個別対応は家族の協力で行っている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持してはいないが、その都度立替をして希望に応じるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてそのように支援している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた共有空間づくりをして、居心地よく過ごせるように工夫している	利用者と一緒に作成した作品を飾り、季節感が感じられるように心がけている。庭で野菜や花を栽培して、楽しみが増えるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで独り座ったり、また気の合った利用者同士でくつろいでもらえるようにしている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には寝具以外は全て使い慣れた物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごせるようにしている	ベッドは事業所で用意している。布団はリース。その他は使い慣れたものを持ち込んでいる。家族の写真を飾ったり、手芸を自室で楽しむ等居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺り、昇降機等があり、必要に応じて利用し出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している		